

小中一貫校準備会議だより

第1号 (2014年2月 生駒市教育委員会)

先の小中一貫教育懇話会では、生駒北中学校区で小中一貫校を設置することについて皆様のご理解を得、今後も行政と地域が一体となって生駒北小学校や生駒北中学校の教育を考えていくことを確認し合いました。そこで出てきた意見が「具体的に小中一貫教育をどう進めていくかについて、時間をかけて話し合いたい」です。それを受けて小中一貫校準備会議を立ち上げました。

参加者ですが、懇話会でも座長をしてくださった小柳和喜雄氏（奈良教育大学教授）に専門的・学術的な見地からのアドバイスをお願いし、保護者代表として北小育友会副会長の諸岡健一氏と北中育友会会長の角義恭氏、自治会代表として久保自治会長の吉川太氏と庄田自治会長の有山喜八郎氏、北小教職員代表として校長の十文字良明氏と教諭の富山二郎氏、北中教職員代表として校長の本田善藤氏と教諭の松島誠周氏が参加されています。それぞれの所属団体の御意見をもち寄っていただき、平成28年度末の小中一貫校開校に向けて準備を進めていきたいと思っております。

第1回準備会議 Q&A



「準備会議ではどのようなことを議題にするのですか？」

→「小中一貫校の設置場所を北小敷地と北中敷地のどちらにするか、通学路の安全、施設の在り方、小中一貫校の名称などについてご意見を伺います。教育課程は別に編成する教員の会議で検討します。」

「懇話会の資料には小中一貫教育のイメージが示されていたが・・・。」

→「教育課程（学校が行う教育活動の目標や内容を示したもの）を学校が編成する際、地域の実情や声を配慮したものにと考えています。」

「これからのスケジュールはどうなっているのでしょうか？」

→「平成26年度は基本設計と実施設計を約1年かけて行います。そして平成27年度から校舎を解体して新築工事に入ります。本格的な小中一貫校がスタートするのは平成29年度です。これは現時点での最短の予定ですので、今後の進行状況により変更することがあります。」

「こんな施設にしてほしい、という要望を出していけるのでしょうか？」

→「準備会議での話し合いも含め、市がコンセプトを出し、それに沿った校舎を設計業者が提案するのです。それを審査委員会が審査し、設計業者を決定します。この方式をプロポーザルと言います。」

「設計コンセプトって何ですか？」

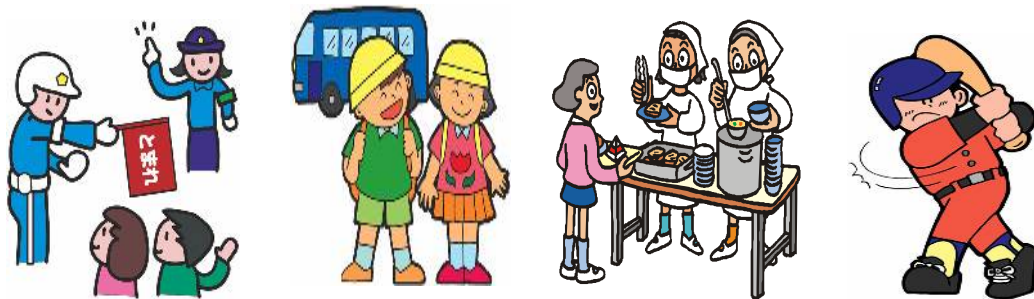
→「理念です。たとえば南こども園の設計コンセプトは【環境にやさしく快適な施設】【「あそび」と「まなび」の融合】【「安全」と「安心」への配慮】でした。」

「生駒北小学校に小中一貫校を設置する際の利点と課題は何ですか？」

| | |
|----|---|
| 利点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 校門に面する道路は比較的交通量が少なく安全である。 ・ バス通学の児童生徒にとってはバス停が近く、便利である。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校に比べて用地が狭くなる。 ・ 地形が細長くて段差があり、利用するには制約がある。 ・ 運動場の形状などから中学校の部活動に支障が生じる可能性がある。 |

「生駒北中学校に小中一貫校を設置する際の利点と課題は何ですか？」

| | |
|----|---|
| 利点 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 敷地面積が広い。よって部活動の場所も広い。 ・ 土地の形が長方形に近いので利用しやすい。 ・ 体育館をそのまま活用できる（外壁等の改修は実施するが）。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 玄関への進入路が狭い。 ・ バス通学の児童生徒にとってはバス停が学校から離れており、不便である。 ・ 県道の交通量が多いため、登下校時の安全面について懸念される。 |



次回の準備会議では、小中一貫校の設置場所について、各所属からの、意見を持ち寄りましょう。（座長）

ということになりました。通学路の安全については、敷地が生駒北小学校・生駒北中学校のどちらになっても、警察や市の担当課と連携し、考えていかなければならない課題です。なお、準備会議に提出された資料や次第については懇話会の時と同様、生駒市のホームページをご覧ください。

生駒市ホームページには議事録等を掲載しております。小中一貫教育のページは次のとおりです。

<http://www.city.ikoma.lg.jp/kashitsu/15200/03/01.html>

